

## 評価とその後

安倍等思

功績を明らかにし、個人を評価することは我が国ではあまり好まれないようである。業績を赤裸々にすることは一般社会には馴染みにくいものだ。試験などの評価を行うことはそんな有耶無耶を取り払う一つの手段ではある。アカデミックな場における昇進ではクローズドではあるが評価が行われる。それらによってもたらされる明白な結果は受け入れざるを得ない。改善のために病院機能評価などの第三者機関による評価を受けることは組織が受ける評価のひとつである。一方、久留米大学というブランドが評価される由縁はそのような評価とは異なる。育まれた個性や人間性のようなものであろう。われわれのプライドはそちらに由来するわけである。基本的評価を楽々と、現実的には石にかじりついても越えねばならない。失敗したら、肝腎なポイントを曖昧せず、公明正大に責任を照らし、改善することが必要となる。そして、その過程や結果を明示することが後に続く者の勇気になるように思えるのである。